

松田権六の略歴

1896. 4. 20. ~ 1986. 6. 15.

1896年	明治29年	4月	-	石川県金沢市に生まれる。
1903年	明治36年	-	(7歳)	兄について蒔絵漆工の習得を始める。
1914年	大正 3年	-	(18歳)	石川県立工業学校卒業。東京美術学校（現・東京藝術大学）漆工科入学。六角紫水邸に寄宿。
1919年	大正 8年	3月	(23歳)	東京美術学校卒業。卒業制作は《草花鳥獣文小手箱》（東京藝術大学蔵）。
1921年	大正10年	3月	(25歳)	東洋文庫で朝鮮楽浪郡遺跡から出土した漆工品の修理に携わる。
1924年	大正13年	10月	(28歳)	東京市本郷区根津須賀町（現・東京都文京区根津）に引越。
1925年	大正14年	-	(29歳)	株式会社並木製作所（現・株式会社パイロットコーポレーション）に入社。万年筆の塗料、蒔絵装飾を指導。

池袋時代

1926年	大正15年	3月	(30歳)	鑄金家・高村豊周らによる工芸団体「无型」の結成に参加（昭和8年4月に解散）。同年暮結婚、一時谷中に住み、その後池袋へ転居。
1927年	昭和2年	9月	(31歳)	並木製作所を退職、顧問となる（昭和11年まで）。東京美術学校助教授に就任。
1928年	昭和3年	9月	(32歳)	日本郵船の照国丸、靖国丸、春日丸などの船内装飾を手がける。
1929年	昭和4年	9月	(33歳)	岩崎小弥太郎（東京・鳥居坂、設計者：中村順平、戦災で消失）の室内装飾完成。食堂、談話室、家具類に漆の装飾を施す。
1931年	昭和6年	1月	(35歳)	国会議事堂御便殿（現・御休所）漆工事を監督。
1933年	昭和8年	6月	(37歳)	文部省派遣による欧州出張旅行。イギリス、ベルギー、オランダ、ドイツ、フランス、スイス、イタリア等を視察。
1939年	昭和14年	1月	(43歳)	羽野禎三と共編で『時代椀大観』（宝雲舎刊行）第一輯を刊行。
1943年	昭和18年	5月	(47歳)	東京美術学校教授に就任。
1944年	昭和19年	8月	(48歳)	《蓬莱之棚》（石川県立美術館蔵）完成。
1945年	昭和20年	4月	(49歳)	池袋の自宅が空襲で全焼。

宮下町(文京区)時代

1953年	昭和28年	9月	(57歳)	正倉院御物の髹漆品調査を宮内庁より委嘱される。
1955年	昭和30年	2月	(59歳)	国の重要無形文化財「蒔絵」の保持者に認定される。この年、文京区宮下町（現・文京区千石）へ転居。
1959年	昭和34年	1月	(63歳)	エジプト政府への招へいにより、北部アメリカ地方の美術工芸品の研究調査のためエジプト・アラブ連合共和国へ出張。この年、文京区宮下町に自宅新築完成。
1961年	昭和36年	7月	(65歳)	国宝当麻曼荼羅厨子軒先板の金平文を発見、その模写模造の実施を指導。
1962年	昭和37年	9月	(66歳)	国宝中尊寺金色堂修理委員となる。
1963年	昭和38年	4月	(67歳)	東京藝術大学教授を定年退官。9月、宮内庁より正倉院御物の太刀外装の調査を委嘱される。
1964年	昭和39年	11月	(68歳)	自著『うるしの話』（岩波新書）刊行。
1965年	昭和40年	1月	(69歳)	日中文化交流協会の招へいにより、北京ほか中国各地を巡る。
1967年	昭和42年	4月	(71歳)	設立に協力した輪島市漆芸技術研修所（現・石川県立輪島漆芸技術研修所）が始まり、その講師を務める。
1972年	昭和47年	-	(76歳)	文化庁の依頼により《蒔絵楨に四十雀模様二段卓》（国立工芸館蔵）の制作工程を記録する。
1976年	昭和51年	11月	(80歳)	文化勲章受章。
1977年	昭和52年	10月	(81歳)	松田権六展（石川県立美術館、翌年、東京国立近代美術館工芸館でも開催）。
1986年	昭和61年	6月15日	(90歳)	逝去。